

令和8年10月26日

保護者の皆様

江東区立越中島小学校
校長 大木 直之

校内研究通信「かもめっ子」

【第2回】学校で広がっている新しい学びの形 ～「越中島小学習スタイル」とタブレットの役割～

いつも本校の教育活動を温かく見守っていただき、ありがとうございます。

第1回では、本校が「こどもが主人公！自ら学びをデザインするかもめっ子」を研究主題に掲げ、教師が手厚く教え導くスタイルから、こどもを信じて委ねる学びへと授業改善を進めている理由をお伝えしました。

第2回となる今回は、こどもたちが実際に教室でどのように自分たちの力で学習を進めているのか、その2つの大きな仕組みをご紹介します。

1 学びの道しるべ「越中島小学習スタイル」

こどもたちが「自分で学びをデザイン（計画・実行）する」と言っても、何もない状態では迷ってしまいます。そこで本校では、1年生から6年生まで全校共通で意識する学びのプロセス「越中島小学習スタイル」を策定しました。

教室には、オリジナルキャラクター「かもみん」が描かれた掲示物があり、こどもたちは「今自分はどの段階にいるか」「次は何をすべきか」を自律的に判断しながら学習を進めています。

1 ナムを見つけ、 問いをつくる



写真や体験から「なぜ？」
「面白そう！」を見つけよう。

2 自分(たち)の 計画を立てる



解決のために「何を」「どう調べるか」を
話し合い、自分のペースで進める計画を
立てよう。

3 解決にチャレンジ！



実験・調査・議論など、
自分(たち)の作戦で追究しよう。

4 ふいかえて 学びを深める



友達との考えの差を楽しみ、
自分がどう「レベルアップ」したかを
言葉にしよう。

低学年では「場や道具を選ぶ」ことから始め、高学年になると「自分たちで学習計画を調整しながら解決する」ところまで、段階的にステップアップしていきます。

2 タブレットは特別な道具ではなく文房具

本校では、一人一台端末（タブレット）を単に「映像を見る」「きれいに発表する」ためだけに使うのではなく、鉛筆やノート、消しゴムと同じ文房具として位置付けています。

研究をご指導いただいている講師の先生（早稲田大学・大村龍太郎准教授）からは、このようなアドバイスをいただきました。

「端末やクラウド環境は、鉛筆や消しゴムと同じように、こどもの学校生活の一部としていつでも使える道具でなければなりません。こどもは慣れると飛躍的に使いこなします！」

授業中、こどもたちは自分の必要に応じてタブレットを開き、インターネットで調べたり、クラウド上で友達の考えを画面越しに参照して「あ、〇〇さんはこんな工夫をしているんだ！」とヒントにしたり、動画で自分の活動を撮って振り返ったりしています。

3 ご家庭で共有したい学びのヒント

授業の主人公がこどもたちに移る中で、先生たちの指導計画（学習指導案）の書き方も「先生が教える順番」から「こどもの意識の吹き出し（～はどうしてかな？～について知りたい!）」を中心につなぐ形へと大きく変わりました。

ぜひ、ご家庭でのお子様との会話でも、この「こどもの意識の流れ」に耳を傾けてみてください。

△ これまでの問いかけ例 「今日、学校で何を習ったの？」

○ これからの問いかけ例 「今日、学校でどんな不思議（問い）が見つかった？」

○ こどものチャレンジを認める声掛け 「自分でやり方を考えて試してみたんだね！
すごいね！」

こども自身が「不思議だな」「やってみたい」と思う気持ちこそが、すべての探究（学び）の原動力です。

今回は、【第3回 試行錯誤と葛藤のドラマ～1年目の挑戦から見えてきたもの～】として、各学年での実際の授業エピソードや、うまくいかなかった経験から先生たちが学んだこと（葛藤）についてご紹介いたします。

【全5回 連載予定】

第1回 なぜ今、越中島小の先生たちは授業を変えているのか？

第2回（今回）学校で広がっている新しい学びの形

第3回 試行錯誤と葛藤のドラマ

第4回 数字と姿で見えてきたかもめっ子の成長

第5回 11月20日研究発表会を迎えるにあたって